

【農山漁村におけるふるさと生活体験推進校】

農山村ふるさと生活体験学習in俵山 ~リーダーをめざして~  
しものせき ぶんかん  
下関市立文関小学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：19学級（内特別支援1学級）
- 児童数：584人
- 教職員数：32人
- 活動の対象学年：5年生 96人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 旧下関市（人口26万人）の中心部に位置し、校区内に商店街や住宅地、数々の公共施設があり、交通の要衝でもある。
- 街中であるため、自然体験および農業体験の機会に恵まれていない。
- 平成20年度の本校重点施策〔相互理解、信頼と敬愛・連携〕を軸に、学校・家庭・地域が一体となって取り組む行事（平家踊り等）を通して信頼関係を築き、密接に連携を深めることにより、開かれた学校づくりに努めている。

③ 連絡先

- 〒750-0009  
山口県下関市上田中町1丁目14-1
- 電話：083-222-1433
- FAX：083-232-0423
- 電子メール：bunkan-shou@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 山村農家民泊による多様な生活体験を通して、自律性・協調性・社会性の育成を図る。
- 俵山特有の体験プログラムを通して、伝統文化や食育に関わる価値を体感させる。

② 活動内容と教育課程上の位置づけ

- 入村式（行事1単位時間）
- 俵山小との交流・町歩きOL（総合的な学習の時間5単位時間）
- 野菜の収穫・郷土料理体験（総合的な学習の時間6単位時間）
- 歌舞伎・化粧炭・そば打ち・餅つき等（総合的な学習の時間6単位時間）
- 山登り体験・ボランティア活動（総合的な学習の時間5単位時間）
- 離村式（行事1単位時間）

③ 宿泊先

- （農家民泊 2泊）  
山口県長門市俵山地区（31家庭）
- （民間施設泊 1泊）  
山口県長門市俵山5061-8 坂倉旅館  
山口県長門市俵山5140 京家旅館  
山口県長門市俵山5139 泉屋旅館

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

本校は、旧下関市内の中心部に位置し、校区内には、商店街、住宅密集地、裁判所や総合庁舎をはじめ様々な公共施設が建ち並び、古くから栄えた交通の要衝でもある。そのような環境の中で育つ本校児童にとって、街中では体験できない山村農家民泊による様々な生活体験や多くの人（関係機関、指導者、民泊先農家、ボランティア、現地児童等）とのふれあいを通して、自律性（自己管理能力）・協調性（共生の精神）・社会性（コミュニケーションを通じた豊かな人間関係づくり）の育成を図ることは、大変有意義なことである。

また、日常体験できない「長門市俵山」特有の体験プログラム（子ども歌舞伎、農作業や野

菜の収穫、郷土料理づくり等)を通して、人々の絶え間ない努力を知り、伝統文化を受け継ぐ心や食の重要性に気づく心を育てることは、「愛・敬・信」を基調とした本校教育目標の本質にふれる絶好の教育的機会であり、その価値を体感させることにより、学校での日常の教育活動をさらに深化・充実・発展させることにつながると考えられる。

○ 全体の指導計画

活動時期・期間	実施する体験活動の概要	教科・領域	単位時間
4月～7月	[関連教科単元]「わたしたちの生活と食料生産」	社会科	【全27単位時間】
5月	総合的な学習の時間『リーダーをめざして』 山村農家民泊体験の概要把握・課題設定	総合的な学習の時間	【全75単位時間】 4単位時間
6月	『農山村ふるさと生活体験学習 in 俵山』事前学習 ①俵山を知ろう ②どんな体験を積もうかな ③どんな人たちと出会うかな	総合的な学習の時間	【全6単位時間】 2単位時間 2単位時間 2単位時間
9月24日 ～27日	『農山村ふるさと生活体験学習 in 俵山』 ①俵山小との交流・町歩きOL ②野菜の収穫・郷土料理体験 ③歌舞伎・化粧炭・そば打ち・餅つき・焼き芋栗 ④山登り体験・ボランティア活動 ※入村式・離村式	総合的な学習の時間    学校行事	【3泊4日】 5単位時間 6単位時間 6単位時間 5単位時間 2単位時間
10月	『農山村ふるさと生活体験学習 in 俵山』事後学習 ①俵山で学んだこと ②様々な体験 ③多くの方々との出会い	総合的な学習の時間	【全6単位時間】 2単位時間 2単位時間 2単位時間
11月30日	学習発表会『リーダーをめざして』	総合的な学習の時間	【全10単位時間】



2 活動の実際

○ 事前指導

本校第5学年児童の実態から『農山村ふるさと生活体験学習 in 俵山』を考えていく際、高学年に進級したとはいえ、まだまだ自律性、協調性、社会性といった面で多くの課題を抱えていることから、年度当初より日常の学級・学年経営の柱としてこれら3つの課題を取り上げ、特に、総合的な学習の時間『リーダーをめざして』(全75単位時間)の中では、児童自らの興味・関心に基づいた自主的な課題設定、意欲的な追究活動、主体的な表現活動等の児童像を念頭に、最終単元『リーダーバトンタッチ』まで長期にわたる継続的な指導を意識してきた。

『リーダーをめざして』では、運動会を通して高学年意識を高めていくことや、よりよいリーダー像を描いて日常ボランティア活動へ主体的に取り組むことなどの活動からスタートし、俵山での活動に直接あるいは間接的につながると思われることに関しては、児童に課題解決へ向けての意識が高まるまで、時間をかけて「見守る」指導姿勢で臨んできた。

○ 活動の展開（プログラム） 指導者：俵山グリーンツーリズム推進協議会員・学校支援委員・下関市立文関小学校教職員

9月24日（水）		9月25日（木）		9月26日（金）		9月27日（土）	
8:00	登校	6:00	起床・朝食	6:00	起床・朝食	6:00	起床・朝食
9:00	学校出発	8:00	農作業体験 [俵山地区4集落]	8:00	(A) 歌舞伎体験	8:00	公民館出発
10:00	俵山到着			9:00	(B) 化粧炭 [俵山公民館・河原]	9:00	住職さんの話 [能満寺]
11:00	入村式 俵山小学校との交流			10:00	(B) 選択メニュー 餅つき	10:00	山登り [能満寺裏山]
12:00	昼食	12:00	昼食	11:00	そば打ち	11:00	
13:00	町歩きOL [支援ボランティア帯同]	13:00	民泊先へ移動 郷土料理づくり	12:00	昼食	12:00	昼食
14:00				13:00	(B) 歌舞伎体験	13:00	ボランティア活動 [長靴洗浄・河原]
15:00				14:00	(A) 選択メニュー 焼き芋	14:00	離村式 [俵山公民館]
16:00				15:00	焼き栗	15:00	俵山出発
17:00	対面式			16:00		16:00	学校帰着 解散
18:00	民泊先へ移動 [俵山地区31軒]	18:00	夕食	17:00	各旅館へ移動 旅館到着 [学級別]		
19:00	夕食	19:00		18:00			
20:00	入浴	20:00	入浴	19:00	夕食		
21:00	1日の振り返り	21:00	1日の振り返り	20:00	入浴		
22:00	就寝・消灯	22:00	就寝・消灯	21:00	1日の振り返り		
				22:00	就寝・消灯		

○ 事後指導

実施後は、「お礼の手紙」冊子作成や、学習発表会へ向けての台本づくりなど、児童の発案による活動が展開された。これは、事前学習からの流れの中で自然と身に付いてきた主体的な

姿だと捉えている。台本作成に手間取ったり、若干お礼が遅くなったりした感はあるが、最後まで「見守る」の指導姿勢を貫き、児童の主体的活動を保障していくことを心がけた。

11月30日（日）に行われた学習発表会では、初めての体験活動や多くの人々との出会いから学んだことを、リーダーをめざす自分自身の成長というテーマで発表し、当日特別に参観していただいた俵山での民泊先農家の方々へしっかりと思いを伝えることができた。

### 3 体験活動の実施体制

#### ○ 学校支援委員会の体制

- ・ 校内職員体制「俵山プロジェクト実行委員会」[校長以下9名] ※全職員による協力体制
- ・ 学校支援委員会 [大学教授、市教委、PTA執行部、学校評議委員等10名]
- ・ 指導者「俵山グリーンツーリズム推進協議会員」「学校支援委員」「下関市立文関小学校教職員」

#### ○ 配慮事項等

- ・ 交通安全&活動支援ボランティアの配置「下関市立大学学生ボランティア等」[16名]
- ・ 下見の徹底と綿密な打ち合わせ（事前研修会3回、事前全体会3回、事後全体会2回）

### 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

年間を通して、自己評価と相互評価を取り入れ、「総合ファイル」「生活ノート」「心のノート」「当日のしおり」等に記述された内容をもとに、評価表『リーダーバロメーター』で自己および他者の成長を実感できるように工夫し、学習のまとめや新たな課題設定に活用してきた。

### 5 活動の成果と課題

#### 【児童の変容～体験活動後行った保護者からの聞き取り調査より一部抜粋】

- ・ 農業の大変さを知って、食べ物を大切にしたり嫌いな物でも食べたりできるようになった。
- ・ 自分以外の周りの人や事柄にも目を向けるようになり、感謝する気持ちが高まった。
- ・ 帰ってきてから少しずつたくましくなり、自分のことは自分でする姿勢が身に付いてきた。
- ・ いろいろな体験ができ、俵山の方々とおふれあったことで、これまでより生き生きとしてきた。

#### 【保護者の声～体験活動後に行ったアンケート調査裏面に記してあった一つを全文引用】

周囲に農業をしている人がいないので、民泊させていただいた家の生活は、テレビや本の中でしか知ることができません。そんな中で実際に体験させてもらえて、子どもにとって貴重な時間だったと思います。牛や山羊、鶏など、普段見ることのない動物たちを見て、触れて、お世話をして、野菜を自分の手で収穫して、毎日食べているものがどうやってできているか、農業の大変さ、すばらしさを実感できて、とてもすばらしい体験活動だったと思います。今回で終わりではなく、今後もたくさん子どもたちが参加できることを期待しています。

#### 【課題～体験活動後に行った教職員アンケートより一部抜粋】

- ・ 児童の感想に「もっと居たかった」「一週間あってもいい」というものが多くあった。期間設定の際危惧していたホームシックや病気等がほとんどなく、趣旨に沿った「長期滞在」も可能であった。
- ・ 「児童につけたい力」を初期のプログラム構成段階からもっとよく吟味しておくよかった。
- ・ 予算執行・会計処理に関しては、諸担当者（県市教委会計担当者・学校事務職員・受け入れ側会計担当者）による緊密な連携と高度な会計処理能力が求められた。いかに簡潔にできるかが課題である。
- ・ 単発型ではなく、本校と俵山地区とのつながりを継続発展させることが今後の課題である。
- ・ 大学生ボランティアとの事前打ち合わせの徹底等、関係諸団体との連携強化が課題である。